

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.254

2014年7月

第55回名大祭「夢見たっていいじゃないか、名大だもの。」が開催される



目次

●ニュース

| | |
|------------------------------------|---|
| 第55回名大祭「夢見たっていいじゃないか、名大だもの。」が開催される | 3 |
| 全学同窓会関西支部第9回総会を開催 | 4 |
| 名古屋入国管理局との情報交換会を開催 | 4 |
| 新入留学生歓迎懇談会を開催 | 5 |
| キャンパスクリーンウィークを実施 | 5 |

●知の先端

| | |
|---------------------|---|
| 減災社会の実現を目指して | 6 |
| 福和 伸夫（減災連携研究センター教授） | |

●知の未来へ

| | |
|----------------------|---|
| 可換環論ーたし算・ひき算・かけ算の学問ー | 8 |
| 高橋 亮（多元数理科学研究科准教授） | |

●部局ニュース

| | |
|---|----|
| 脳とこころの研究センターオープニングセレモニー記念式典を挙 | 9 |
| 教育学部附属中・高等学校の校舎機能改修竣工式を挙 | 10 |
| 第19回名古屋ビジネスセミナーを開催 | 10 |
| 第5回「先進科学塾@名大」を開催 | 11 |
| 第22回8大学情報系研究科長会議を開催 | 11 |
| 展示会「戦争と大学ー1931～1945 官立名古屋医科大学・名古屋帝国大学ー」 | 12 |
| を開催 | |
| 博士課程教育リーディングプログラム合同講演会・説明会を開催 | 12 |
| ICCAE 第3回オープンセミナーを開催 | 13 |
| 第102回防災アカデミーを開催 | 13 |
| 第1回地球教室「石器の材料を調べよう！」を開催 | 13 |

●受賞者一覧

| | |
|---------------------------------|----|
| ●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成26年5月16日～6月15日 | 14 |
|---------------------------------|----|

●イベントカレンダー

| | |
|-------------|----|
| ●ちょっと名大史 | 19 |
| 名大史のなかの仮装行列 | 22 |
| | 28 |

第55回名大祭「夢見たっていいじゃないか、名大だもの。」が開催される





- 1 | 2 | 3 |
- 1 メインストリートの様子
 - 2 メインステージでのイベントの様子
 - 3 後夜祭での火舞の様子

第55回名大祭が、6月5日(木)から8日(日)までの4日間、「夢見たっていいじゃないか、名大だもの。」をテーマに、東山キャンパスで開催されました。このテーマは、本学の学生による学内公募で決定したもので、名大生は萎縮してしまっている、自分の中の何か熱いものを忘れてしまっていないかという内省に対し、名大祭という大きなキャンパスに、名大生自身がそれぞれ抱えている夢を描くことで、自分らしさ、名大生らしさを表現していく第一歩を踏み出すきっかけとしたい、という思いが込められています。

本祭に先立ち、5月18日(日)には「仮装行列」、5月25日(日)には「スケート企画」が、それぞれ名大祭プレ企画として実施されました。

本祭期間中の平日はあいにくの雨天となりましたが、屋内にも多数の来場者が足を運び、大変な盛り上がりを見せました。

6日(金)の夕方には、「第9回盆踊り企画」が行われました。この企画は、近隣町内会の方々と共同で作ったものであり、当日は本学の学生だけでなく、地域の住民の方々がお子さんとともに企画を楽しむ姿が見られました。また、盆踊り以外にも様々な縁



日企画が催され、学生と地域の方々との交流が盛んに行われました。

7日(土)、8日(日)には、雨も上がり、北側メインストリートで実施された「模擬店」では、保健所の助言を得た厳しい衛生管理のもと、40団体の飲食物の屋台が名大祭を盛り上げました。各店舗ごとに大変な賑わいを見せ、多くの来場者が安心して料理を楽しんでいました。

その他にも、名大祭本部実行委員会その主催による学術講演会企画「『ユニバース』無限の宇宙、そのひとかけらを理解する」や、古本市、有志団体によるよさこいやバンドのパフォーマンス、吹奏楽の演奏など、数多くの企画が行われ、家族連れなど多数の来場者が企画を楽しんでいました。

これら企画の他に、研究公開という学術的な企画も行われ、普段見ること

ができない本学の研究の一端を、来場者は興味深く見学していました。

7日(土)の夜には、今年で3回目となるレーザーショーが行われました。「夢」をコンセプトにした今年のレーザーショーは、昨年までのものをさらにグレードアップさせ、より幻想的な雰囲気へと来場者を引き込みました。

最終日となる8日(日)の夜には、第55回名大祭を締めくくる「後夜祭」が行われました。冒頭の太鼓の演奏でその迫力ある音と動きで来場者を引き込み、その後の企画も大変盛り上がるものとなりました。後夜祭の最後となる火舞では、名古屋大学のシンボルともいえる豊田講堂をバックに壮大な演技が行われ、名大祭の終演に相応しいものとなりました。

全学同窓会関西支部第9回総会を開催

名古屋大学全学同窓会関西支部第9回総会が、5月17日(土)、大阪市の中央電気倶楽部において開催されました。

総会には、会員約70名が出席し、三洋化成工業(株)名誉顧問である箕 哲男全学同窓会関西支部長の開会あいさつに始まり、濱口総長による、「名古屋大学の国際化と人材育成－勇気ある人材は育成できるか－」と題した講演が行



会場の様子

行われました。講演の中で、本学では自由闊達で対等な人間関係や、強靱な精神力と勇気を持つ知識人を育成するための歴史的土壌が築かれており、濱口プランにより、さらに、アジアを中心とした教育拠点開発によるグローバルな人材育成、世界トップレベル研究開発拠点プログラム(WPI)、若手育成プログラム(YLC)の推進、研究大学強化推進事業採択など、世界トップレベルの教育研究現場としての役割を果たすべく発展しているとの報告がありました。

次いで、伊藤義人全学同窓会代表幹事が、全学同窓会の昨年度の支援活動、カード事業等の報告及び来年度の事業計画について述べました。

続いて、福和減災連携研究センター長から、「予測できる災害、南海トラフ巨大地震を総力で凌ぐ」と題した、現在、最も重要で注目度の高いテーマの講演が行われ、実際の災害の映像や、実験映像による解説に、参加者は興味深く講演に聴き入っていました。

総会及び講演会後の懇親会は、部局支部同窓会の代表者からの近況報告や、各テーブルでの談笑など、和やかなうちに終了しました。

名古屋入国管理局との情報交換会を開催

名古屋入国管理局との情報交換会が、5月19日(月)、IB電子情報館大講義室において開催されました。当日は名古屋を中心とした東海地方の各大学、教育機関等から約200名の参加がありました。

はじめに、三枝国際部長より開会のあいさつがあり、続いて、安東健太郎名古屋入国管理局留学・研修審査部門首



会場の様子

席審査官から、「入国管理行政全般」、「申請取次制度」及び「留学生の在籍に係る注意点」について、黒崎悦郎同就労審査部門首席審査官から、「研究者及び留学生の就労」及び「高度人材ポイント制」について、それぞれ講演がありました。

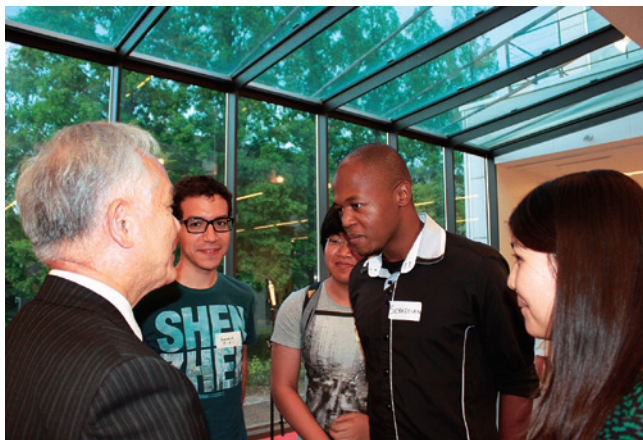
質疑応答のコーナーでは、事前に受け付けた質問の他、出席者からの多くの質問に回答がありました。

本会終了後も、講演者に対して積極的に質問をする出席者の姿が多数うかがえ、盛会のうちに終了しました。

新入留学生歓迎懇談会を開催

平成26年度春季新入留学生歓迎懇談会が、5月19日(月)、南部食堂において開催されました。

この懇談会の趣旨は、今後の留学生生活を実りあるものになるよう激励し、留学生同士のみならず、留学生関係教職員との懇談を通して一層の相互理解・交流を深めることを目的としたもので、新入留学生、教職員など約250名の参



総長と歓談する新入留学生たち

加がありました。

最初に濱口総長から歓迎、激励のあいさつがあり、これを受け、新入留学生を代表して、大学院国際言語文化研究科のハイ・タリー（カンボジア）さんと、大学院情報科学研究科のブラーマストロ・クレスナラマン（インドネシア）さんが、それぞれ日本での留学についての抱負等を述べました。

続いて、渡辺理事の発声による乾杯の後懇談に移り、新入留学生が総長や教職員を囲んで、にこやかに歓談したり、記念撮影を行う姿が会場のあちらこちらで見られました。

懇談会は、福田国際言語センター長の閉会のあいさつの後、大盛況のうちに終了となりました。

キャンパスクリーンウィークを実施

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が名大祭終了後の6月9日(月)から13日(金)までの間、全学の教職員及び学生の協力を得て実施されました。

これは、環境月間となっている6月に環境保全に対する関心を高めるために、平成元年から実施されているもので、本学では例年6月と12月の年2回行っています。名古屋



説明を受ける職員

屋市の一構成員として境界の外周道路清掃も併せて行い、環境美化に努めています。

本部では、6月10日(火)の午後、梅雨の中休みで蒸し暑い中、竹下事務局長をはじめとした約150名の職員が、一斉に東山キャンパス構内及び周辺の市道に分かれて、空き缶・紙くず等の除去、不要なビラ等の撤去などの作業を行いました。

平成23年に変更された名古屋市のごみ分別区分が浸透してきたこともあり、参加者の分別意識がより高くなってきています。

本学では、今後も年2回のキャンパスクリーンを実施することにより、「ゴミのないきれいなキャンパス」を目指していきます。

減災社会の実現を目指して

福和 伸夫 減災連携研究センター教授

この20年余り、被害地震が続発しています。なかでも、阪神淡路大震災と東日本大震災は、現代社会の脆さを露わにし、科学の限界を見せつけることになりました。早期の発生が心配されている南海トラフ巨大地震では、両震災と比べ桁違いの被害が推計されています。この被害を抜本的に軽減しない限り、我が国は国家存亡の危機を迎えると思われ、予想されます。被災の中心となる東海地域に位置する名古屋大学は、減災のために中心的な役割を果たさなければなりません。当地域は、我が国随一の産業中核拠点です。大きな損害を出せば、その影響は計り知れません。分かっている災害で社会を破綻させることは許されません。科学の力でこの災害を克服し、未来の子供たちに安寧な社会を繋いでいく必要があります。

このような問題意識から、私たちは、東日本大震災直前の2010年12月に減災連携研究センターを仮設置しました。その後、2012年1月に6名の専任教員が既存研究科から異動し、同年4月には3寄附研究部門を設置しました。さらに、本年3月には活動の拠点である減災館も完成し、減災研究



減災館の外観

に本格的に取り組む体制が整いつつあります。

私自身は、民間建設会社時代も含め、原子力発電施設や高層建物、免震・制振建物や大型宇宙構造物などのもの作りのための先端研究や、交通振動や工事・機械振動などの微振動対策などの課題解決型の研究に取り組んできました。しかし、先端的な研究だけでは大震災による災害被害を防ぐことはできません。社会が持っている災害対応力を越える被害を出すと、社会そのものが破綻する怖れがあります。社会が破綻する理由は単純です。地震による外力が社会の耐力を越えるからです。

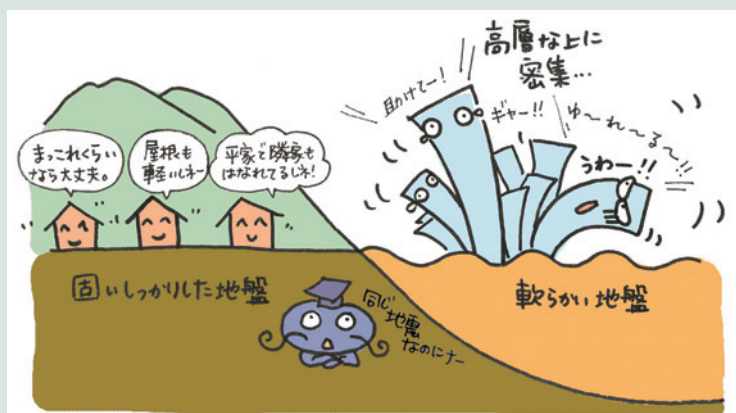
これを防ぐには、外力を減じるか、危険を回避するか、社会の抵抗力を増すしかありません。外力の低減には堤防などのインフラの整備が、危険の回避には土地利用計画の見直し、抵抗力の増大には家屋の耐震化や室内の安全確保、地域コミュニティ力や人間の生きる力の醸成が必要になります。さらに、災害後に遅く再生する社会の回復力も必要になります。災害に強いレジリエンスな社会の構築そのものです。

こういった社会の実現には、安価で大量に普及できる耐震化工法や家具固定金具の開発、国民の減災行動を誘発する方法論の開発などの研究が大きな役割を果たします。また、国民の意識啓発・防災教育や、それを担う防災人材の育成も必要となります。さらに、社会のあらゆる構成員の総力を結集する仕組み作りや場作りがこれを支えます。このように、甚大な被害を軽減するためには、あらゆる手段を講じ、対策の足し算で被害の引き算をするという態度が大事になります。さらに、俯瞰的に考え身近で行動をするという、着眼大局・着手小局の実践が鍵を握ります。

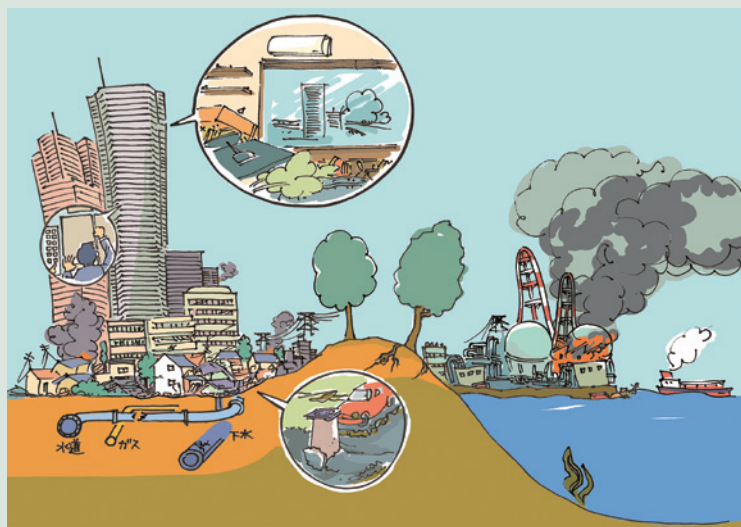
これは、創造的・競争的先端研究とは異なる課題解決的・協調的総合研究です。地震発生のみならず、揺れや液状化、構造物の倒壊、社会や人間の行動など、災害発生のメカニズムを解明しつつ、対策行動の必要性を納得させる教材開発、災害をわがことと感じさせる表現方法、さらには、社会や個人に減災行動を決断させる方法論、そして、具体的な対策方法に関する開発研究など、減災社会の実現という出口を見据えて総合的に実施する必要があります。

減災館には、具体的な研究成果が多数展示してあります。毎週、火曜から土曜の午後1時から4時に一般開放をしていますので、是非一度お出かけ下さい。上杉鷹山の師匠で尾張藩明倫堂の初代督学だった細井平洲は、「勇やるかな

勇なるかな勇あらずして何を持って行わんや」や「学思考相俟つ」といった言葉を残してくれました。勇気を持って学び考え実践することの大切さを述べています。勇気ある知識人として防災・減災を実現する実践的研究に取り組みたいと思っています。



地盤と建物の条件による揺れの違い



現代社会の災害脆弱性

専門は建築耐震工学、地震防災。民間建設会社で10年間勤務した後、工学部建築学科、先端技術共同研究センター、環境学研究科を経て現職。地震災害軽減に関わる教育・研究に携わる傍ら、災害被害軽減のための国民運動作りを展開。南海トラフ巨大地震による地震被害軽減のため減災活動に邁進中。上杉鷹山の「為せば成る為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり」を肝に銘じている。

ふくわ のぶお



高橋 亮
多元数理科学研究科准教授

可換環論―たし算・ひき算・かけ算の学問―

整数全体のなす集合 \mathbb{Z} は、たし算・ひき算・かけ算という演算を持っています。つまり、二つの整数に対しそれらをたす・ひく・かけるという操作があり、その操作の結果はまた整数になります。なお、 \mathbb{Z} はわり算という演算は持っていません。一つの整数を別の(0でない)整数でわった結果は整数とは限らないからです。たし算・ひき算・かけ算を持っている集合のことを環と言います。他にも、例えば

- ① 実数全体のなす集合
- ② 係数が有理数であるような1変数多項式全体のなす集合
- ③ 複素数を成分にもつ2次正方行列全体のなす集合

なども環です。環の中でも、積が交換可能になっているものを可換環と言います。上で述べた環の例では、①と②は可換環ですが、③は可換環ではありません。一般に二つの行列の積は、かける順番を逆転させると異なるものになるためです。

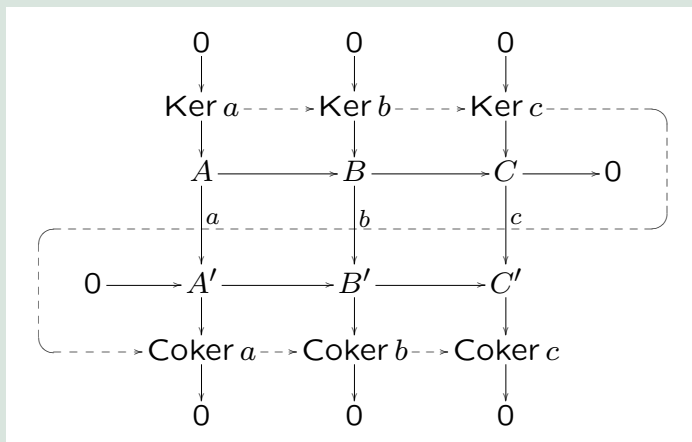
私の専門分野である可換環論は、文字通り可換環を研究する分野です。19世紀後半のデデキントによる代数体の研究やヒルベルトによる不変式の研究の中で誕生し、代数幾何学、整数論、表現論、非可換環論、位相幾何学、組合せ論、計算機代数、そして近年では統計学など、さまざまな分野と関わりを持ちながら発展してきました。名古屋大学関係者も永田雅宜先生をはじめ多くの方が可換環論の発展に貢献してきています。

さて、環の性質を調べる方法は、大きく分けて二通りあります。一つはイデアルという環の部分集合を使って環を「内側」から調べる方法です。



米国にある数理科学研究所 (Mathematical Sciences Research Institute 略称 MSRI)。カリフォルニア州バークレーの丘の上に位置し、ベイブリッジ、ゴールデンゲートブリッジ、サンフランシスコの街並みが一望できる。2012~13年には可換環論の研究プログラムが行われ、世界各国の可換環論研究者が数ヶ月間にわたって滞在し、毎日のようにセミナーが開かれた。

もう一つはその逆で、環を「外側」から調べる方法です。つまり、環が他の集合たちに与える“影響”を見て元の環を知ろうというものです(環に影響を与えられる集合は加群と呼ばれます)。私は、主に後者の手法を用いて可換環を研究しています。与えられた可換環に対し、それが持つ加群全体および加群同士の関わり合いの情報をすべて包括した導来圏というものの構造を理解することが研究の主目的です。導来圏は可換環だけでなくさまざまな数学的対象から構成され物理学においても重要な役割を果たすものであり、数学および物理学の種々の現象を記述する共通の道具として近年特に盛んに研究されています。



「蛇の補題 (Snake Lemma)」と呼ばれる図式。破線部分が蛇に似ていることからこのように呼ばれる。学部学生向けの授業で習うような初等的な補題だが、可換環論の最先端研究においても頻繁に用いられる。他にもユニークな名前が付いた補題として、「馬の蹄鉄補題 (Horseshoe Lemma)」などがある。いずれもその形から連想される図式になっている。

脳とこころの研究センターオープニングセレモニー記念式典を挙

●脳とこころの研究センター



あいさつする総長

脳とこころの研究センターは、6月10日(火)、豊田講堂シンポジオンホールにおいて、オープニングセレモニー記念式典を挙りました。

同センターは、健常者や脳とこころの疾患の大規模コホートの構築と、本学における複数の部門や施設がコンソーシアムを形成することにより、発達と加齢の脳内神経回路変化の解明、脳とこころに関する疾患の病態の解明に基づいたクオリティ・オブ・ライフの向上方策や創薬開発を目指すとともに、当該疾患の克服に向けた研究を活性化し、若手人材育成を図ることを目的とし、昨年12月に本学の学内共同教育研究施設等として設置されました。

式典には、学内外から150名の方々の出席があり、祖父江同センター長による開会のあいさつの後、濱口総長があいさつを行い、続いて、堀内義規文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長をはじめ、来賓の方々が祝辞を述べました。続けて行われたセンター紹介では、祖父江同センター長からセンターの概要説明、各種最先端の画像解析装置(MRI、脳磁図(MEG)、PET)を用いたコネクター

ム(脳内神経回路)解析研究や健常者1,000名を対象としたコホート研究の紹介、さらに、それらの研究がもたらす脳とこころの疾患克服への期待、基礎研究領域との連携や発展、産業界への波及効果、国際研究への発展や展開について紹介が行われました。さらに、同センターと連携研究を推進している佐原成彦放射線医学総合研究所主任研究員から、世界的に注目されているアルツハイマー病をはじめとする、神経変性疾患で蓄積するタウタンパク質を可視化するPET用プローブの開発状況について、尾崎紀夫同センター研究開発部門教授から、こころの疾患として、脳とこころの可視化を通じた統合失調症、うつ、発達、車の運転に関する研究事例の紹介が行われました。

また、記念式典終了後に引き続き記念祝賀会が開催されました。同センターの目指す広範な教育研究の連携について、学内部局や組織を超えた関係者により胸襟を開いた活発な意見交換が行われ、同センターを中心にした今後の共同研究体制の整備や推進にも有意義な情報交換ならびに交流の場となりました。



講演する祖父江センター長



式典の様子

教育学部附属中・高等学校の校舎機能改修竣工式を挙行

●教育学部附属中・高等学校

教育学部附属中・高等学校は、5月30日(金)、同校交流棟4階交流ホールにおいて、校舎機能改修竣工式を開催しました。式典には、濱口総長をはじめ、学内外から約90名が参加し、松田教育学部長から、株式会社鴻池組、株式会社ホクエー電工、株式会社カケン、株式会社社長大、株式会社ピーエーシーに感謝状が贈呈されました。



記念撮影

現在、同校はスーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) 及びスーパー・グローバル・ハイスクール (SGH) アソシエイトの指定を受けています。今回の機能改修により、すべての教室の廊下側に引き違い窓が設置され、SSH 及び SGH アソシエイトの公開授業や研究会において廊下側からの参観が可能になりました。また、環境面も断熱性を飛躍的に向上させるなど、より快適でエコな教育環境を実現しました。

新営された交流棟は、グローバル人材の育成を目指した高大接続カリキュラムの構築を、同学部・同研究科と協同で取り組むための中核拠点となります。同校では毎年、世界各国から研究者・教育関係者や生徒・学生を200名近く受け入れており、来校した高校生の中には、本学のグローバル30プログラムへ進学する学生もいます。和室や交流ホールでは、協同研究や交流活動が行われ、その成果はTV会議システム等を活用して国内外へ発信していきます。また、図書館では資料検索やディスカッションが、協同研究を行う際には、生物教室や化学教室で実験観察が可能です。このように、交流棟は、グローバル交流の拠点であるとともに、高大接続における情報発信の中心的建物としての役割を果たしています。

第19回名古屋ビジネスセミナーを開催

●大学院経済学研究科

大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センターは、6月5日(木)、日本経済新聞社名古屋支社会議室において、第19回名古屋ビジネスセミナーを開催しました。今回は、小林益久松阪市副市長を講師として招き行われました。

同センターは、大学院経済学研究科と緊密に協力し、領域横断型の研究を開拓、その成果を内外の大学、研究機関

をはじめ、広く社会に還元することを任務としています。その一環として、地域に開かれた研究活動を推進するために、本学経済学部同窓会である社団法人キタン会と共同で「名古屋ビジネスセミナー」を開催しています。

セミナーでは、佐藤宣之国際経済政策研究センター教授の司会のもと、木村同センター長による開会あいさつに続いて、小林副市長による「『公募』副市長の冒険」と題した講演が行われました。

小林副市長は、元々は公務員ではなく、日米英の金融機関で勤務し、国債ストラテジストの第一人者として活躍、その後、松阪市副市長の公募に応じ、平成22年から副市長の職に就いています。講演では、「定説を疑う。」等の自身のモノの見方を紹介した後、松阪牛の存在がかえって松阪市のポテンシャルの発揮を邪魔しているという逆説的な見方を問題提起し、住民協議会を活用した「市民力の引き出し」、企業・大学との積極的な連携、国内外への輸出を目指す「環境観光都市」松阪モデル等々、松阪市の改革の取り組みを紹介しました。

参加者は終始熱心に聴き入り、セミナー後のアンケートにおいても、反響の高い講演であることがうかがえました。



講演する小林副市長

第5回「先進科学塾@名大」を開催

●大学院理学研究科

大学院理学研究科は、6月7日(土)、8日(日)の2日間、第5回「先進科学塾@名大」を開催しました。この催しは、毎回テーマに沿った様々な実験を行い、多くの市民に科学のもっとも面白い部分に触れてもらい、科学に親しんでもらうことを目的としています。

第5回のテーマは、「りんごは落ちるとこまでも！」と



実験の様子

題して、岐阜物理サークルの石川幸一氏を招いて開催しました。参加者は、走りながら物体を落下させることができる慣性台車を用いてガリレオの相対性原理を確認したり、発電機をつけた台車を用いて斜面での等加速度運動の様子をオシロスコープで観察したりするなど、近代科学の先駆けとなったニュートン力学の世界を実験で楽しみました。最後に理学部の中庭にあるニュートンゆかりのりんごの木を囲んで記念撮影を行いました。参加者は、中学生15名、高校生5名、小学生1名、一般の方8名の計29名でした。

次回は、7月26日(土)、27日(日)に霧箱を用いて素粒子の世界を探る実験講座「ひらめきときめきサイエンス」を開催します。

先進科学塾では、希望があれば近辺の中学・高校への出前授業なども行ってゆく予定です。

先進科学塾@名大のホームページは、こちら(<http://asw.flab.phys.nagoya-u.ac.jp/>)をご覧ください。

第22回8大学情報系研究科長会議を開催

●大学院情報科学研究科

大学院情報科学研究科は、5月16日(金)、名古屋市メルパルク NAGOYA において、第22回8大学情報系研究科長会議を開催しました。同会議は、北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学の8大学の情報系研究科長が情報に関する分野の教育・研究の課題について、意見交換することを目的

として年2回開催されており、今回は、本学が幹事校として主催しました。

会議では、坂部情報科学研究科長によるあいさつの後、文部科学省から招いた、黒澤修身高等教育局専門教育課課長補佐と今田 潤研究振興局参事官・情報担当付企画係長から、最近の文部科学省の施策等について講演が行われました。

引き続き行われた意見交換会では、「情報系大学院における研究者養成」、「情報学研究を発展させる、新しい教育研究の組織形態」、「年俸制導入、外国人教員・女性教員・若手教員の雇用の促進の検討・対応状況」、「学術レポジトリ整備の現状」等の協議事項について、各大学及び文部科学省の出席者で活発な意見交換が行われ、大変有意義な会議となりました。

その後行われた懇親会においても、和やかな雰囲気の中で、より率直な意見が交わされ、始終盛況のうちに閉会となりました。



会議での意見交換の様子

展示会「戦争と大学－1931～1945 官立名古屋医科大学・名古屋帝国大学－」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、2月12日(水)から6月7日(土)までの間、展示会「戦争と大学－1931～1945 官立名古屋医科大学・名古屋帝国大学－」を開催しました。この展示会は1931年の満州事変から、日中戦争、太平洋戦争を経て、1945年の敗戦までの戦時下における大学の学生生活、研究、医療について、医学部史料室の所蔵品を展示したもので



展示会の様子

です。

本学の前身である官立名古屋医科大学は、1931年に設置されました。卒業アルバムには軍事教練や、野砲第三連隊見学、陸軍病院慰問、勤労奉仕のほか、松茸狩りの写真なども掲載されています。学生会主催の講演会のポスターは、1934年の建物と木をデザインした医学講演会のものから、2年後には、「日支問題の過去と現在」など文字だけの、緊迫した時局を反映したポスターへと変わっていきます。

名古屋帝国大学が創設された1939年以降の展示資料では、澁澤元治初代総長の「我等の学園」、「五十年間の回顧」から、学生寮で総長と学生とが豚鍋をつつき合う懇談会の様子や、軍部からの要求に対して、大学は学術を以って時局に応じる教育をなす使命を持っている、と答えるなど当時の澁澤総長の考え方を随所に読み取ることができます。

空襲により被災した図書、灰塵に帰した鶴舞キャンパスの写真、市民の重要な医療機関として疎開しなかった医学部附属病院の「病院防空」、「空襲に因る外傷患者の治療成績」など、当時の部外秘資料も含む多彩な展示品により、来館者に戦争について考えてもらう機会を提供できました。

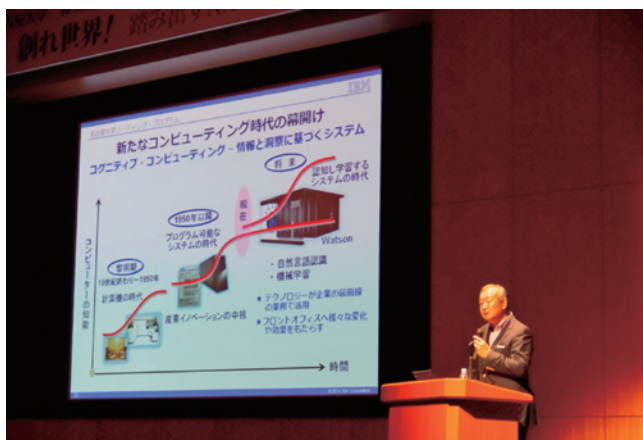
博士課程教育リーディングプログラム合同講演会・説明会を開催

●リーディング大学院推進機構

リーディング大学院推進機構は、5月17日(土)に札幌、5月24日(土)に東京、5月31日(土)に大阪の各会場において、博士課程教育リーディングプログラム合同講演会・説明会を開催しました。現在、本学で採択されている6つのプログラムが合同で開催したこの講演会・説明会では、各リーディングプログラムの紹介とともに、大学院経済学研

究科、大学院工学研究科、大学院生命農学研究科の各研究科長による本学大学院の紹介が行われました。また、各会場では、素粒子宇宙起源研究機構長である益川敏英特別教授(札幌、東京会場)、赤坂清隆前国連事務次長(札幌会場)、橋本孝之日本IBM株式会社社会長(東京会場)、西澤真理子リテラジャパン代表(東京会場)、前モンゴル大使である城所卓雄博物館特任教授(大阪会場)らによる講演が催され、大学院進学を考える学部生や、一般の来場者たちは熱心に聴き入っていました。

説明会では、各プログラムごとに個別ブースも設けられ、ポスターセッションとともにプログラムの担当教員や履修生と来場者が直接話すことにより、各リーディングプログラムの内容や学生支援の内容をより理解してもらうことができ、盛況の内に幕を閉じました。



講演会の様子

ICCAE 第3回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター



講演する吉田センター長

農学国際教育協力研究センター（ICCAE）は、6月9日（月）、農学部第5講義室において2014年度第3回のオープンセミナーを開催しました。今回は、吉田和浩広島大学教育開発国際協力研究センター長を講師として招き「国際教育協力の最新の議論について－成果重視とポスト2015年の教育アジェンダ」と題した講演が行われました。

世界が目標としているミレニアム開発目標（MDGs）の中では、「普遍的な初等教育」が非常に重視されました。そして、2015年までのMDGsの後、国際社会ではポストMDGsとして質の高い教育や生涯学習などが議論されています。その中で、国際協力において何をしたかではなく、徐々にその成果が重視されるようになってきました。また、個々のプロジェクトを包括的なプログラムの中の1つとし実施する方法も重視されています。大学院国際開発研究科からも多くの学生や職員が参加し、国際協力の評価について、評価者の視点など、議論を深めることができました。

第102回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター



講演する千木良教授

減災連携研究センターは、6月12日（木）、環境総合館レクチャーホールにおいて、第102回防災アカデミーを開催しました。今回は、89名の参加があり、千木良雅弘京都大学防災研究所教授による講演、「深層崩壊はどこでおこるのか」が行われました。

はじめに、地震や豪雨などに伴う斜面崩壊の被害は非常に大きいことが示され、その後、降雨による深層崩壊事例の紹介、深層崩壊が引き起こす被害として、土砂の直撃や増水した川に突入したことによる津波の発生、天然ダムの形成など考えられると説明がありました。一方で、地震による事例としては、事前の斜面変形の存在が崩壊箇所予測の鍵となること、また降下火砕物は地震動に対してたいへん弱く、崩壊が何の前兆もなく起こることもあるが、地質的観点から発生地点を予測することができることなどが説明されました。その後、会場では講演内容を踏まえ、活発な質疑応答が行われました。

第1回地球教室「石器の材料を調べよう！」を開催

●博物館



鉄平石の採石場で露頭を見学する参加者

博物館は、5月24日（土）、25日（日）に今年度1回目のフィールドセミナー「地球教室」を開催しました。この催しは、名古屋市科学館と連携して行われており、抽選により選ばれた小中学生、高校生、一般の方の32名が参加しました。今回のテーマは、7月12日（土）まで博物館で開催されていた特別展「人類史上画期的な石器」と関連づけ、古代から現代まで人類に利用されてきた2つの火山岩（黒曜石と鉄平石）とし、地学と考古学の観点をリンクさせました。両岩石の打ち割り体験を行い、天然ガラスの黒曜石がナイフの素材に適していること、また、板状節理の発達した鉄平石を建材に用いることが理に適っていることを体感してもらいました。さらに、フィールド実習として、両岩石が産出する長野県霧ヶ峰地方に赴き、縄文時代の黒曜石鉞山遺跡や現代の鉄平石採石場を見学しました。なお、この事業は、愛知大学名古屋一般教育研究室の援助を受けて開催しています。

受賞者一覧

褒章関係

| 受章日 | 受賞名 | 受賞者の所属・職名 | 受賞者 | 備考 |
|-----------|------|------------|-------|----|
| H26. 4.29 | 紫綬褒章 | 大学院工学研究科教授 | 佐藤 健一 | |

教員

| 受賞日 | 受賞名 | 受賞者の所属・職名 | 受賞者 | 備考 |
|-----------|---|-----------------------------|---|--|
| H25. 7. 1 | The Physical Society of Japan 2012 Highly Cited Article | 大学院工学研究科研究員 | 山影 相 | |
| H25.11.15 | 第5回薄膜太陽電池セミナー 優秀発表賞 | 大学院工学研究科研究員 | ジュンウィチャン スパワン | |
| H25.12.20 | 第14回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 優秀講演賞 | 太陽地球環境研究所 准教授 | 三好 由純 | 他6名と連名 |
| H26. 2.17 | 2013年度(第28回)日本建築学会東海賞論文賞 | 大学院工学研究科助教 | 太幡 英亮 | |
| H26. 2.19 | 2014愛知環境賞 優秀賞 | — | 大学院環境学 研究科 都市環境学専攻 奥宮研究室 施設計画推進室・ 工学部施設整備 推進室 | 他1組織と計3組織連名 |
| H26. 3.10 | 第31回(平成25年度)永井科学技術財団永井学術賞 | 大学院工学研究科教授 | 大槻 主税 | |
| H26. 3.17 | 日本機械学会 生産システム部門部門貢献表彰 | エコトピア科学研究所 准教授 | 樋野 励 | |
| H26. 3.17 | 2014年度代数学賞 | 大学院多元数理科学研究科 准教授 | 古庄 英和 | 日本数学会代数学分科会の学術賞 |
| H26. 3.18 | 日本機械学会東海支部 日本機械学会東海支部賞 功績賞 | 大学院工学研究科教授 | 新美 智秀 | |
| H26. 3.19 | 第10回2013年度精密工学会論文賞 | 大学院工学研究科教授 | 社本 英二 | センジャルブラック(大学院工学研究科特任助教)、鈴木教和(大学院工学研究科准教授)、樋野 励(エコトピア科学研究所准教授)、他1名と連名 |
| H26. 3.19 | 第10回2013年度精密工学会論文賞 | エコトピア科学研究所 准教授 | 樋野 励 | 社本英二(大学院工学研究科教授)、センジャルブラック(大学院工学研究科特任助教)、鈴木教和(大学院工学研究科准教授)、他1名と連名 |
| H26. 3.19 | 第30回2013年度精密工学会沼田記念論文賞 | 大学院工学研究科研究員 | 橋本 洋平 | 鈴木教和(大学院工学研究科准教授)、樋野 励(エコトピア科学研究所准教授)、社本英二(大学院工学研究科教授)他1名と連名 |
| H26. 3.19 | 第30回2013年度精密工学会沼田記念論文賞 | エコトピア科学研究所 准教授 | 樋野 励 | 橋本洋平(大学院工学研究科研究員)、鈴木教和(大学院工学研究科准教授)、社本英二(大学院工学研究科教授)他1名と連名 |
| H26. 3.19 | 日本植物生理学会 奨励賞 | トランスフォーマティブ 生命分子研究所特任准教授 | 中道 範人 | |
| H26. 3.27 | 2014年日本細菌学会 黒屋奨学賞 | 大学院医学系研究科講師 | 木村 幸司 | |
| H26. 3.27 | 第7回(2013年度)日本原子力学会 炉物理部会賞 | 大学院工学研究科助教 | 遠藤 知弘 | |
| H26. 3.27 | 第46回(平成25年度)日本原子力学会賞 論文賞 | 大学院工学研究科教授 | 山本 章夫 | |
| H26. 3.27 | 第11回(2014年度)農芸化学研究企画賞 | 大学院生命農学研究科教授 | 松本 省吾 | |
| H26. 3.27 | Animal Science Journal 優秀論文賞 | トランスフォーマティブ 生命分子研究所教授 | 吉村 崇 | |
| H26. 3.28 | 日本化学会 第63回進歩賞 | 大学院工学研究科准教授 | 櫻田 啓 | |
| H26. 3.28 | 日本化学会 第63回進歩賞 | 大学院理学研究科准教授 | 深澤 愛子 | |
| H26. 3.28 | 日本化学会第94春季大会 第28回「若い世代の特別講演会」講演賞受賞 | 大学院工学研究科准教授 | 三宅 由寛 | |
| H26. 3.28 | 日本化学会第94春季大会 第28回「若い世代の特別講演会」講演賞受賞 | トランスフォーマティブ 生命分子研究所特任講師 | 大松 亨介 | |

受賞者一覧

| 受賞日 | 受賞名 | 受賞者の所属・職名 | 受賞者 | 備考 |
|-----------|---|--------------------------|------------|----------------------------------|
| H26. 3.28 | 日本化学会第94春季大会 第28回「若い世代の特別講演会」講演証受賞 | 物質科学国際研究センター 助教 | 齊藤 尚平 | |
| H26. 3.28 | 第8回(2014年)日本物理学会若手奨励賞 | エコトピア科学研究所 准教授 | 梶田 信 | |
| H26. 3.29 | 第8回(2014年)日本物理学会若手奨励賞 | 大学院工学研究科研究員 | 山影 相 | |
| H26. 3.28 | 第8回 PCCP Prize | 物質科学国際研究センター 助教 | 齊藤 尚平 | |
| H26. 3.29 | The Distinguished Lectureship Award The CSJ Asian International Symposium The Chemical Society of Japan | 大学院工学研究科特任講師 | ハン ミナ | |
| H26. 4. 1 | 第10回「画像診断」Best Invited Editor 賞 | 大学院医学系研究科教授 | 長縄 慎二 | |
| H26. 4. 3 | Fellow of AHA, American Heart Association Council for High Blood Pressure Research; HBPR | 大学院医学系研究科教授 | 永田 浩三 | |
| H26. 4.10 | 日本化学会第94春季年会(2014)優秀講演賞 (学術) | 大学院工学研究科助教 | 安井 隆雄 | |
| H26. 4.10 | 日本化学会第94春季年会(2014)優秀講演賞 (学術) | 物質科学国際研究センター 助教 | 中 寛史 | |
| H26. 4.10 | 日本化学会第94春季年会(2014)優秀講演賞 (学術) | 物質科学国際研究センター 助教 | 村上 慧 | |
| H26. 4.10 | 日本化学会第94春季年会(2014)優秀講演賞 (学術) | エコトピア科学研究所講師 | 神谷由紀子 | |
| H26. 4.10 | 日本化学会第94春季年会(2014)優秀講演賞 (学術) | 大学院工学研究科助教 | 原 光生 | |
| H26. 4.11 | Highly Cited Articles in 2013 The Physical Society of Japan | 大学院工学研究科教授 | 田仲由喜夫 | 佐藤昌利(大学院工学研究科准教授)と 連名 |
| H26. 4.15 | 平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞 開発部門 | エコトピア科学研究所教授 | 田中 信夫 | 荒井重勇(エコトピア科学研究所特任 准教授)、他2名と連名 |
| H26. 4.15 | 平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞 | 物質科学国際研究センター 助教 | 齊藤 尚平 | |
| H26. 4.15 | 平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞 | 大学院環境学研究科助教 | 諸田 智克 | |
| H26. 4.17 | 読売テクノ・フォーラム 第20回ゴールド・メダル賞 | トランスフォーマティブ 生命分子研究所教授 | 東山 哲也 | |
| H26. 4.18 | Nankai University Lectureship on Organic Chemistry | トランスフォーマティブ 生命分子研究所教授 | 伊丹健一郎 | |
| H26. 4.19 | 2014年度(第18回)建築史学会賞 | 大学院工学研究科助教 | 堀田 典裕 | |
| H26. 4.20 | 第20回(2014年)日本ナイル・エチオピア学会 高島賞 | 高等研究院特任助教 | 吉田早悠里 | |
| H26. 4.24 | 2014年度 日本内分泌学会 学会賞 | 大学院医学系研究科教授 | 大磯ユタカ | |
| H26. 4.25 | 長瀬科学技術振興財団 長瀬研究振興賞 | 大学院工学研究科教授 | 上垣外正己 | |
| H26. 4.26 | 第87回日本内分泌学会学術総会 若手研究奨励賞 | 医学部附属病院医員 | 萩原 大輔 | |
| H26. 4.26 | 第85回日本脳神経外科学会中部支部会 優秀論文賞 | 医学部附属病院医員 | 今井 資 | |
| H26. 5. 3 | 第67回中日文化賞 | 生物機能開発利用研究 センター教授 | 松岡 信 | |
| H26. 5. 9 | ターボ機械協会 技術賞 | 大学院工学研究科教授 | 井上 剛志 | |
| H26. 5.12 | 平成25年度土木学会中部支部 優秀研究発表賞 | 大学院工学研究科准教授 | 中村 友昭 | |
| H26. 5.12 | 電子情報通信学会 2013年度通信ソサイエティ 論文賞 ComEX Best Letter Award | エコトピア科学研究所 准教授 | 岡田 啓 | 他1名と連名 |
| H26. 5.12 | 日本顕微鏡学会 2014年度第29回論文賞 顕微鏡法基礎部門 | エコトピア科学研究所 准教授 | 齋藤 晃 | 田中信夫(エコトピア科学研究所教授) 他2名と連名 |
| H26. 5.12 | 日本顕微鏡学会 2014年度第15回奨励賞 | エコトピア科学研究所 准教授 | 巽 一徹 | |
| H26. 5.15 | 第49回(平成25年度)東海化学工業会 学術賞 | 大学院工学研究科助教 | キム イルヨン | |
| H26. 5.20 | 第1回 Patient Safety & Quality Award (医療の質・安全大賞)優秀賞 | — | 医学部附属病院 | |

受賞者一覧

| 受賞日 | 受賞名 | 受賞者の所属・職名 | 受賞者 | 備考 |
|-----------|---|--------------|-------------|--------------------------------|
| H26. 5.20 | Outstanding Paper Award, The 3rd International Conference on Virtual Machining Process Technology | 大学院工学研究科教授 | 社本 英二 | センジャルブラック（大学院工学研究科 特任助教）と連名 |
| H26. 5.22 | 平成25年度化学とマイクロ・ナノシステム学会 若手優秀賞 | 大学院工学研究科助教 | 安井 隆雄 | |
| H26. 5.23 | 日本都市計画学会 2013年 年間優秀論文賞 | エコトピア科学研究所教授 | 山本 俊行 | 森川高行（大学院環境学研究科教授）、 他1名と連名 |
| H26. 5.23 | 日本都市計画学会 2013年 年間優秀論文賞 | 大学院環境学研究科教授 | 森川 高行 | 山本俊行（エコトピア科学研究所教授）、 他1名と連名 |
| H26. 5.24 | 第18回日本表面科学会 学会賞 | 大学院工学研究科教授 | 財満 鎮明 | |
| H26. 5.27 | 2014年度春季低温工学・超電導学会 優良発表賞 | 大学院工学研究科特任講師 | 田中 雅光 | |
| H26. 5.28 | 第39回愛知広告協会賞 プリント媒体：部門賞ポスターA 電波媒体：愛知県知事賞 | — | 医学部附属 病院 | 37の企業・大学・医療機関で受賞 |
| H26. 5.29 | Wiley- Blackwell Prize 2014 | 大学院工学研究科准教授 | 西島 謙一 | 飯島信司（大学院工学研究科教授）と 連名 |
| H26. 5.30 | 平成26年度日本皮膚科学会皆見省吾記念賞 | 大学院医系研究科講師 | 河野 通浩 | |
| H26. 5.30 | 電気学会 2013年度電気学術振興賞 論文賞 | エコトピア科学研究所教授 | 早川 直樹 | |
| H26. 5.30 | 平成26年度 日本栄養・食糧学会 奨励賞 | 大学院生命農学研究科助教 | 小林 美里 | |
| H26. 5.30 | 2014年日本建築学会賞（論文） | 大学院環境学研究科教授 | 勅使川原正臣 | |
| H26. 6. 1 | 第18回リバネス研究費 リブセンス賞 | 大学院理学研究科研究員 | 野田口理孝 | |
| H26. 6. 7 | ノボ ノルディスク成長・発達研究賞2014 | 医学部附属病院講師 | 梶村 益久 | |
| H26. 6. 7 | 2013年度 日本ドイツ学会奨励賞 | 大学院環境学研究科准教授 | 青木 聡子 | |
| H26. 6. 8 | 公益社団法人日本理学療法士協会 協会賞 | 大学院医学系研究科教授 | 鈴木 重行 | |
| H26. 6. 9 | BEST POSTER AWARD, 20th WORLD CONGRESS OF SOIL SCIENCE | 大学院生命農学研究科教授 | 浅川 晋 | 山下昂平（大学院生命農学研究科 M2） 他2名と連名 |
| H26. 6.13 | 日本ビタミン学会第66回大会（2014年度） 学会賞 | 大学院生命農学研究科教授 | 吉村 徹 | |

事務職員・技術職員

| 受賞日 | 受賞名 | 受賞者の所属・職名 | 受賞者 | 備考 |
|-----------|--------------------|-----------------------------------|------|----|
| H26. 4. 1 | 2014年度日本海洋学会 奨励論文賞 | 地球水循環研究センター 技術補佐員 （研究支援推進員） | 許 永久 | |

学生

| 受賞日 | 受賞名 | 受賞者の所属・学年 | 受賞者 | 備考 |
|-----------|---|--------------|-------|---|
| H25. 5.25 | 分離技術会年会2013 奨励賞・住重プラント エンジニアリング賞 | 大学院工学研究科 M1 | 三善 研吾 | |
| H25.12.14 | Best Poster Award (Imaging), 13th Asia- Oceania Congress of Medical Physics & 11th South-East Asian Congress of Medical Physics | 大学院医学系研究科 M2 | 丸山 星 | |
| H25.12.20 | 第14回計測自動制御学会 システムインテグ レーション部門講演会 SI2013 優秀講演賞 | 大学院工学研究科 M2 | 長澤 哲弥 | 田崎勇一（大学院工学研究科助教）、 鈴木達也（大学院工学研究科教授）と連名 |
| H25.12.20 | 第14回計測自動制御学会 システムインテグ レーション部門講演会 SI2013 優秀講演賞 | 大学院工学研究科 M2 | 垣尾 翼 | ツウランピラ（大学院工学研究科 D1）、 新井史人（大学院工学研究科教授）と連名 |
| H25.12.20 | 第14回計測自動制御学会 システムインテグ レーション部門講演会 SI2013 優秀講演賞 | 大学院工学研究科 M2 | 吉浦 隆仁 | 原 進（大学院工学研究科准教授）、 山田陽滋（大学院工学研究科教授）と連名 |
| H25.12.20 | 第14回計測自動制御学会 システムインテグ レーション部門講演会 SI2013 優秀講演賞 | 大学院工学研究科 M1 | 長谷川明裕 | ハオチェイ（大学院工学研究科 D3）、 浅羽浩太郎（大学院工学研究科 M2）、 早川義一（大学院工学研究科教授）と連名 |
| H26. 1.22 | 電気学会東海支部 電気学会優秀論文発表賞 | 大学院工学研究科 M2 | 西町誠一郎 | |
| H26. 1.22 | 電気学会東海支部 電気学会優秀論文発表賞 | 大学院工学研究科 M1 | 石黒 純也 | |
| H26. 1.31 | 第43回結晶成長国内会議 日本結晶成長学会講演奨励賞 | 大学院工学研究科 D2 | 新家 寛正 | |

受賞者一覧

| 受賞日 | 受賞名 | 受賞者の所属・学年 | 受賞者 | 備考 |
|-----------|--|--------------------|-------------|---|
| H26. 2. 1 | 平成25年度東海三大学通信系研究室 合同修論発表会 優秀発表賞 | 大学院工学研究科 M2 | 服部 晋悟 | |
| H26. 2.14 | 応用物理学会東海支部 支部学術講演会 発表奨励賞 | 大学院工学研究科 D2 | 柴山 茂久 | |
| H26. 2.14 | 応用物理学会東海支部 支部学術講演会 発表奨励賞 | 大学院工学研究科 M2 | 寺澤 謙吾 | |
| H26. 2.21 | 2013年度計測自動制御学会 学術奨励賞 技術奨励賞 | 大学院工学研究科 D1 | 伊藤 優司 | |
| H26. 2.28 | 第23回ライフサポート学会 奨励賞 | 大学院工学研究科 D2 | リー ジェリオン | |
| H26. 3. 1 | 自動車技術会 大学院研究奨励賞 | 大学院工学研究科 D3 | 山口 拓真 | |
| H26. 3. 1 | 平成25年度電気学会東海支部長賞 | 工学部 4年 | 汲田 将之 | |
| H26. 3. 3 | 日本化学会 日本化学会東海支部長賞 | 工学部 4年 | 鈴木 元紀 | |
| H26. 3. 3 | フォトニックネットワーク研究会賞 2013 フォトニックネットワーク若手研究賞 | 大学院工学研究科 D2 | シン シシュウ | |
| H26. 3. 4 | 第10回フォトニックネットワーク研究会 学生ワークショップ 優秀賞 | 工学部 4年 | 佐藤 晃輔 | |
| H26. 3. 6 | Best Poster Presentation Award ISPlasma2014/IC-PLANTS2014 | 大学院工学研究科 M2 | 江頭 一輝 | 豊田浩孝（大学院工学研究科教授）と連名 |
| H26. 3.16 | 第18回日本体力医学会東海地方会 学術奨励賞 | 大学院教育発達科学研究科 D2 | 安藤 良介 | 秋間 広（総合保健体育科学センター教授）、 他1名と連名 |
| H26. 3.16 | 日本堆積学会2014年山口大会最優秀講演賞 | 大学院環境学研究科 D2 | 阿部 朋弥 | 他2名との連名 |
| H26. 3.17 | 日本機械学会東海支部 第45回学生員卒業研 究発表講演会 Best Presentation Award | 工学部 4年 | 田代 和也 | |
| H26. 3.17 | 第35回応用物理学会 講演奨励賞 | 大学院工学研究科 D2 | 佐野 誠実 | |
| H26. 3.18 | 2013年度日本建築学会東海支部 学生優秀講演賞 | 大学院環境学研究科 M2 | 光山 茜 | |
| H26. 3.18 | 2013年度日本建築学会東海支部 学生優秀講演賞 | 大学院環境学研究科 M1 | 別府 克俊 | |
| H26. 3.18 | 2013年度日本建築学会東海支部 学生優秀講演賞 | 大学院環境学研究科 M1 | 水谷 冬樹 | |
| H26. 3.19 | 化学工学会 第79年会本部大会学生賞 特別賞 | 大学院工学研究科 M1 | 吉田 将也 | |
| H26. 3.19 | 物構研サイエンスフェスタ 2013 学生奨励賞 | 大学院工学研究科 D3 | 提嶋 佳生 | |
| H26. 3.19 | 物構研サイエンスフェスタ 2013 学生奨励賞 | 大学院工学研究科 M1 | 富田 裕介 | |
| H26. 3.19 | 電気学会優秀論文発表賞 A賞 | 大学院工学研究科 M2 | 西町誠一郎 | |
| H26. 3.19 | 電気学会優秀論文発表賞 A賞 | 大学院工学研究科 M1 | 北村 卓也 | |
| H26. 3.20 | 化学工学会 第79年会本部大会学生賞 金賞 | 大学院工学研究科 D1 | 星野倫太郎 | 神田英輝（大学院工学研究科助教）、 後藤元信（大学院工学研究科教授）と連名 |
| H26. 3.20 | 化学工学会 第79年会本部大会学生賞 銀賞 | 大学院工学研究科 M2 | 吉本 将悟 | |
| H26. 3.25 | 日本化学会 日本化学会東海支部長賞 | 大学院工学研究科 M2 | 岩附 紘子 | |
| H26. 3.25 | 応化会 応化会賞 | 大学院工学研究科 M2 | 岩附 紘子 | |
| H26. 3.25 | 名古屋大学工学研究科 平成25年度物質制御 工学専攻修士論文発表会 最優秀賞 | 大学院工学研究科 M2 | 岩附 紘子 | |
| H26. 3.25 | 名古屋大学工学研究科 平成25年度物質制御 工学専攻修士論文発表会 最優秀賞 | 大学院工学研究科 M2 | 高井 順矢 | |
| H26. 3.25 | 名古屋大学工学研究科 平成25年度物質制御 工学専攻修士論文発表会 優秀賞 | 大学院工学研究科 M2 | 赤羽真理子 | |
| H26. 3.25 | 平成25年度日本化学会 東海支部長賞 | 工学部 4年 | 津田 弘貴 | |
| H26. 3.27 | 第46回（平成25年度）日本原子力学会賞 論文賞 | 大学院工学研究科 D3 | 田淵 将人 | |
| H26. 3.27 | 2013年度日本地理学会賞（若手奨励部門） | 大学院環境学研究科 D1 | 杉江 あい | |
| H26. 4. 2 | 第125回日本森林学会大会 学生ポスター賞 | 大学院生命農学研究科 D1 | 近藤 崇 | 早瀬晴菜（農学部4年）、 肘井直樹（大学院生命農学研究科教授）と 連名 |

受賞者一覧

| 受賞日 | 受賞名 | 受賞者の所属・学年 | 受賞者 | 備考 |
|-----------|---|---------------|-------------|--|
| H26. 4. 2 | 第125回日本森林学会大会 学生ポスター賞 | 大学院生命農学研究科 M2 | 西村 朋也 | 梶村 恒 (大学院生命農学研究科准教授)と連名 |
| H26. 4.10 | 第70回日本放射線技術学会総会学術大会 優秀賞 | 大学院医学系研究科 M1 | 井上 政輝 | |
| H26. 4.10 | 日本化学会第94春季年会 (2014) 学生講演賞 | 大学院工学研究科 D3 | 林 幹大 | |
| H26. 4.10 | 日本化学会第94春季年会 (2014) 学生講演賞 | 大学院理学研究科 D3 | 白瀧千夏子 | |
| H26. 4.10 | 日本化学会第94春季年会 (2014) 学生講演賞 | 大学院工学研究科 D2 | 内山 峰人 | |
| H26. 4.10 | 日本化学会第94春季年会 (2014) 学生講演賞 | 大学院工学研究科 D2 | 土肥 侑也 | |
| H26. 4.10 | 日本化学会第94春季年会 (2014) 学生講演賞 | 大学院理学研究科 D2 | 松尾 恭平 | |
| H26. 4.12 | 第13回アフリカ教育研究フォーラム 優秀賞 | 大学院国際開発研究科 M2 | 近藤 菜月 | |
| H26. 4.13 | 第70回日本放射線技術学会総会学術大会 CyPos 賞 銀賞 | 大学院医学系研究科 M2 | 柴田 貴行 | |
| H26. 4.13 | 第70回日本放射線技術学会総会学術大会 CyPos 賞 銅賞 | 大学院医学系研究科 M2 | 丹羽奈緒子 | |
| H26. 4.17 | 第43回日本脊椎脊髄病学会 English poster award | 大学院医学系研究科 D4 | 伊藤 研悠 | 今釜史郎 (医学部附属病院講師)、石黒直樹 (大学院医学系研究科教授)、他1名と連名 |
| H26. 4.18 | 平成25年度地盤工学会中部支部賞 (論文賞) | 大学院工学研究科 D3 | 吉川 高広 | |
| H26. 4.24 | Best Student Poster Award The 3rd Advanced Lasers and Photon Sources | 大学院工学研究科 M2 | 服部 雄治 | |
| H26. 5.12 | 平成25年度土木学会中部支部技術賞 | 大学院工学研究科 D3 | 吉川 高広 | |
| H26. 5.20 | 日本ゴム協会 2014年年次大会ポスター発表の部 ポスター優秀発表賞 | 大学院工学研究科 M2 | 木村聡一郎 | 棚橋満 (大学院工学研究科講師)、他2名と連名 |
| H26. 5.23 | 化学とマイクロ・ナノシステム学会 第29回研究会 優秀ポスター賞 | 大学院工学研究科 D1 | 伊藤啓太郎 | |
| H26. 5.27 | 日本機械学会 若手優秀講演フェロー賞 | 大学院工学研究科 D1 | 伊藤啓太郎 | |
| H26. 5.30 | 粉体工学会 2014年度春季研究発表会 ベストプレゼンテーション賞 | 大学院工学研究科 D3 | 根路銘葉月 | |
| H26. 5.30 | レーザー学会 第34回年次大会 論文発表奨励賞 | 大学院工学研究科 M2 | 平 祐介 | |
| H26. 5.31 | 平成26年度分離技術会年会奨励賞 三進製作所賞 | 大学院工学研究科 M2 | 高橋 彩 | 向井康人 (大学院工学研究科准教授)と連名 |
| H26. 5.31 | 平成26年度分離技術会年会奨励賞 月島環境エンジニアリング賞 | 大学院工学研究科 M1 | 富川 隆志 | 町田 洋 (大学院工学研究科助教)、堀添浩俊 (大学院工学研究科教授)と連名 |
| H26. 5.31 | 平成26年度分離技術会年会奨励賞 KH ネオケム賞 | 大学院工学研究科 M1 | 富川 隆志 | 町田 洋 (大学院工学研究科助教)、堀添浩俊 (大学院工学研究科教授)と連名 |
| H26. 5.31 | 平成26年度土木学会関西支部年次学術講演会 優秀発表賞 第七部門 | 工学部 4年 | 松井 健吾 | |
| H26. 6. 4 | Winner of the 2014 Industrial Ecology Gordon Research Conference Poster Competition | 大学院環境学研究科 D2 | フィッシュマン トメル | |
| H26. 6. 5 | 電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞 (博士) | 大学院工学研究科 D2 | 久志本真希 | |
| H26. 6. 5 | 電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞 (修士) | 大学院工学研究科 D1 | 田中 裕也 | |
| H26. 6. 5 | 電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞 (高専 / 学部) | 大学院工学研究科 M1 | 小倉 貴志 | |
| H26. 6.10 | 第32回エネルギー・資源学会研究発表会 第2回学生発表賞 | 大学院工学研究科 M2 | 北山 隼 | 加藤文佳 (大学院工学研究科准教授)、鈴置保雄 (大学院工学研究科教授)と連名 |
| H26. 6.13 | 触媒学会西日本支部 第5回触媒科学研究発表会 優秀ポスター発表賞 | 大学院工学研究科 D3 | 塚田 千恵 | |

*受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年5月16日～6月15日]

| 記事 | 月日 | 新聞等名 |
|---|----------------------------------|-------------------------------|
| 1 あいち現場考:大学教育 野依良治本学特別教授は論文不正が起きる可能性の1つとして「大学生になって、初めて接する担当教官に影響される」と語る | 5.17 (土) | 中日 (朝刊) |
| 2 今さら聞けない 震災と予知:山岡耕春環境学研究科教授は大地震の前に前兆すべりがあると気象庁が2003年に予知の判定を整備したことについて「その後、前兆すべりが観測できない場合もあると分かってきた」と語る | 5.17 (土) | 朝日 (朝刊) |
| 3 中部ひと模様:災害ボランティア 息長く NPO 法人レスキューストックヤード代表理事栗田暢之氏環境学研究科に社会人入学 | 5.17 (土) | 日経 (夕刊) |
| 4 現代日本誤百科 (985):「のどの渴きをうるおす」町田 健文学研究科教授 | 5.19 (月) | 中日 (朝刊) |
| 5 いまドキッ!大学生:根本二郎経済学研究科教授は本学のリーディングプログラム履修生の進路について「企業への推薦など、大学の総力を挙げて履修生をバックアップしたい」と語る | 5.20 (火) | 中日 (朝刊) |
| 6 現代日本誤百科 (986):「人生の主役たれ」町田 健文学研究科教授 | 5.20 (火) | 中日 (朝刊) |
| 7 紙つづて:見えないけれど 杉山 直理学研究科教授 | 5.20 (火) | 中日 (夕刊) |
| 8 澤田 誠環境医学研究所教授はアルツハイマー病関連分子の脳内分布を3次元で測定することに成功 | 5.21 (水) | 日刊工業 |
| 9 現代日本誤百科 (987):「早期に治療して命に別状はなかった」町田 健文学研究科教授 | 5.21 (水) | 中日 (朝刊) |
| 10 川合伸幸情報科学研究科准教授はマーモセットの社会的知性を明らかにした | 5.21 (水) | 中日 (夕刊) |
| 11 ビジネスリーダー 経営者ブログ:増える内定辞退 私の提案 丹羽宇一郎本学名誉博士 | 5.21 (水) | 日経 (夕刊) |
| 12 本学と自然科学研究機構・基礎生物学研究所はメダカの体を黄色や白に彩る色素細胞の多様性を生み出す仕組みを解明 | 5.21 (水) 5.22 (木) | 読売 朝日 (朝刊) |
| 13 本学の禁煙・分煙に向けた取り組みが取り上げられる | 5.22 (木) | 日経 (夕刊) |
| 14 中嶋哲彦教育発達科学研究科教授は沖縄県教育委員会が竹富町単独での教科書採択を認めたことについて「竹富町が直面した問題は、どの市町村でも生じ得る」と語る | 5.22 (木) | 毎日 (朝刊) |
| 15 現代日本誤百科 (988):「手を切らさなければ」ならない 町田 健文学研究科教授 | 5.22 (木) | 中日 (朝刊) |
| 16 「日本・ノルウェー マリンセミナー 2014」開催:6月4日 本学とノルウェー大使館などが共催 | 5.22 (木) | 日刊工業 |
| 17 数理ウェブ開催:24日 大沢健夫多元数理科学研究科教授が「予測不能性の数理」と題して講演 | 5.22 (木) | 中日 (朝刊) |
| 18 第80回東海学生陸上競技対抗選手権大会:男子1万メートル 1位 国司寛人さん工学部3年生 | 5.22 (木) | 中日スポーツ |
| 19 本学など9大学が学術論文などの著作物を電子教材に利用しやすくするための共同組織「大学学習資源コンソーシアム」を立ち上げた | 5.23 (金) | 日経 (朝刊) |
| 20 中嶋哲彦教育発達科学研究科教授が首長主導の教育委員会制度改革について「前の首長から任命された教育委員らと現在の首長の方針の違いをどう調整するかも課題」と語る | 5.23 (金) | 朝日 (朝刊) |
| 21 木山博資医学系研究科教授らは慢性疲労症候群の痛みについて脊髄で特定の免疫系細胞が活性化することが一因となっていることを突き止めた | 5.24 (土) 5.26 (月) 5.27 (火) | 中日 (朝刊) 日経 (夕刊) 毎日 (朝刊) |
| 22 愛敬浩二法学研究科教授など有識者が集まり「国民安保法制懇」を設立 | 5.24 (土) 5.29 (木) | 中日 (朝刊) 朝日 (朝刊) |
| 23 朝日カルチャーセンター講座:「はじめてのラテン語」玉垣あゆ本学非常勤講師 | 5.25 (日) | 朝日 (朝刊) |
| 24 現代日本誤百科 (989):「友人を酔いつぶす」町田 健文学研究科教授 | 5.26 (月) | 中日 (朝刊) |
| 25 レーザー:文化の創造へ 毛利佳年雄本学名誉教授 | 5.26 (月) | 日刊工業 |
| 26 のよりサロン:「地震予知」科学者 謙虚でなくては 野依良治本学特別教授が本学学生と議論を交わす | 5.27 (火) | 中日 (朝刊) |
| 27 「木で、未来をつくろう! in 愛知県」開催:4月27日 佐々木康寿生命農学研究科教授が講演 | 5.27 (火) | 中日 (朝刊) |
| 28 紙つづて:父のこと 杉山 直理学研究科教授 | 5.27 (火) | 中日 (夕刊) |
| 29 東レ株式会社社会長榊原定征氏本学卒業生が日本化学会の会長に就任 | 5.27 (火) 5.29 (木) | 日経 (朝刊) 朝日 (朝刊) |
| 30 東海・北陸地域が一体となって炭素繊維王国へ 産業集積を目指す 炭素繊維の主な研究として本学のナショナルコンポジットセンターが取り上げられる | 5.28 (水) | 読売 |
| 31 本学工学部と愛知工業大学、愛知県がんセンターが協力し手術執行中の映像から医師の頭などを透かしてメスの動きを見せるシステムを開発中 | 5.28 (水) | 朝日 (朝刊) |
| 32 現代日本誤百科 (990):「可能性が強い」町田 健文学研究科教授 | 5.28 (水) | 中日 (朝刊) |
| 33 ナゴヤカルチャー:椋山女学園大学名誉教授桜井好朗氏を悼む 本学在学中に史学者をめざす | 5.28 (水) | 朝日 (朝刊) |
| 34 本学が盗用の有無を調べる検知システム「アイセンティケイト」を導入したことが取り上げられる | 5.29 (木) | 朝日 (朝刊) |
| 35 現代日本誤百科 (991):「吸血された傷口」町田 健文学研究科教授 | 5.29 (木) | 中日 (朝刊) |
| 36 榎 文彦本学名誉博士が大幅な見直しを求めた新国立競技場の基本設計案が日本スポーツ振興センターの将来構想有識者会議で承認された | 5.29 (木) | 朝日 (朝刊) |

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年5月16日～6月15日]

| 記事 | 月日 | 新聞等名 |
|--|----------------------------------|--|
| 37 大学共同利用機関・総合地球環境学研究所教授中塚 武氏元本学教授などは樹木の年輪を独自の手法で分析し過去2000年間の中部地方の年ごとの雨量の変化を突き止めた | 5.29 (木) | 中日 (朝刊) |
| 38 和田 肇法学研究科教授はすき家の従業員がインターネット上でストライキを呼びかけたことについて「法律上はストライキとは言えず、仕事をさぼったのと同じ扱い。賠償を求められかねず、軽率に応じるべきではない」と語る | 5.30 (金) | 朝日 (朝刊) |
| 39 産業技術総合開発機構が中心になり本学など11大学が参加し再生医療の技術を用いて人の心臓などを大量に安くつくるための共同研究を開始 | 5.30 (金) | 日経 (朝刊) |
| 40 第67回中日文化賞 贈呈式：30日 松岡 信生物機能開発利用研究センター教授が『『頭をたれる』精神を持って取り組む毎日です』と語る | 5.30 (金) 6. 3 (火) | 中日 (夕刊) 中日 (朝刊) |
| 41 松見 豊太陽地球環境研究所教授などのグループは日本に飛来する大気中の微粒子中の金属成分を分析するための装置を開発 | 5.31 (土) 6. 2 (月) 6.10 (火) | 中日 (朝刊) 日経 (夕刊) 毎日 (夕刊) |
| 42 福和伸夫減災連携研究センター教授は愛知県が公表した南海トラフ巨大地震被害想定について「防災教育の充実は不可欠だ」と語る | 5.31 (土) | 朝日 (朝刊) 他2社 |
| 43 山岡耕春環境学研究科教授が愛知県の南海トラフ巨大地震被害想定への検討に携わり「想定される被害状況をしっかり見て、それぞれの地域で何ができるか真剣に考えて欲しい」と語る | 5.31 (土) | 毎日 (朝刊) |
| 44 社説：組み体操の事故 高さを競うのは危険だ 内田 良教育発達科学研究所准教授の小学校での負傷事故についての研究が取り上げられる | 5.31 (土) | 毎日 (朝刊) |
| 45 理学部の留学生や帰国子女の学生が東山動物園の展示物の説明を英訳する作業を進めている | 5.31 (土) | 中日 (朝刊) |
| 46 日本第四紀学会 2013年 学会賞・学術賞受賞者講演会：7日 学会賞受賞の海津正倫本学名誉教授が講演 | 6. 1 (日) | 朝日 (朝刊) |
| 47 病院の実力：人工関節 医学部附属病院の治療実績が取り上げられる | 6. 1 (日) | 読売 |
| 48 教えて、センセイ！：高層階は「長周期」対策も 護 雅史減災連携研究センター特任教授 | 6. 2 (月) | 中日 (朝刊) |
| 49 現代日本誤百科 (992)：「子どもへのかわいさがあまって甘やかす」町田 健文学研究科教授 | 6. 2 (月) | 中日 (朝刊) |
| 50 嗜好と文化「好きだからやってきた」作家辻 真先本学卒業生 | 6. 2 (月) | 毎日 (朝刊) |
| 51 あすへの話題：日本化学工業協会「21世紀のケミストリーを語る」野依良治本学特別教授が講演 | 6. 2 (月) | 日経 (夕刊) |
| 52 3日に経済団体連合会定時総会が行われ、東レ株式会社社長榊原定征氏本学卒業生が新会長に就任 | 6. 2 (月) 6. 3 (火) 6. 4 (水) | 日経 (朝刊) 読売 他3社 日経 (朝刊) 他2社 |
| 53 現代日本誤百科 (993)：「開けつつある未来」町田 健文学研究科教授 | 6. 3 (火) | 中日 (朝刊) |
| 54 この人：13代目の経団連会長に就く 東レ株式会社社長榊原定征氏本学卒業生 | 6. 3 (火) | 中日 (朝刊) |
| 55 榊原経団連 始動：政治との関係改善 意欲 | 6. 3 (火) | 読売 |
| 56 研究現場発：空気を栄養にする植物をつくる 藤田祐一生命農学研究科准教授 | 6. 3 (火) | 中部経済新聞 |
| 57 飛田哲朗医学部附属病院医員などのグループは筋肉が減り、肥満になるお年寄りが1割あまりいるとの調査結果をまとめた | 6. 3 (火) | 朝日 (夕刊) |
| 58 紙つぶて：愛すべき変人の巣窟 杉山 直理学研究科教授 | 6. 3 (火) | 中日 (夕刊) |
| 59 防災の知恵：辻本哲郎工学研究科教授は「巨大台風の直撃を受ければ、この地域（濃尾平野）は確実に大きなダメージを受ける」と語る | 6. 4 (水) | 読売 |
| 60 現代日本誤百科 (994)：「感動を客席に届ける」町田 健文学研究科教授 | 6. 4 (水) | 中日 (朝刊) |
| 61 名古屋大学理学懇話会：7日 佐藤憲昭理学研究科教授、原田正康同教授が講演 | 6. 4 (水) | 中日 (朝刊) |
| 62 経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が法人実行税率を3年で20%台に引き下げるべきとの考えを示した | 6. 4 (水) | 日経 (朝刊) |
| 63 春秋：3日に就任した経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が取り上げられる | 6. 4 (水) | 日経 (朝刊) |
| 64 本学と九州大学は細菌の酵素を触媒につかった燃料電池を開発 | 6. 5 (木) 6. 6 (金) | 中日 (朝刊) 日刊工業 |
| 65 現代日本誤百科 (995)：「携帯電話使用禁止にご協力ください」町田 健文学研究科教授 | 6. 5 (木) | 中日 (朝刊) |
| 66 本学は企業ニーズが高い特許を持つ大学ランキングで9位に入った | 6. 5 (木) | 日経 (朝刊) |
| 67 法科大学院合同説明会：15日 本学など8校の法科大学院の紹介や講演会が行われる | 6. 5 (木) 6.13 (金) | 中日 (朝刊) 中日 (朝刊) |
| 68 上出洋介本学名誉教授が書籍「論文の書きかた」を出版し、18日に公開講座を行う | 6. 6 (金) | 中日 (朝刊) |
| 69 本学を含む16校が公募「スーパーグローバル大学創成支援」トップ型に応募したと発表される | 6. 6 (金) | 日経 (夕刊) |
| 70 博物館と南山大学が収蔵品の相互利用の協定を結び、第18回博物館特別展「人類史上画期的な石器一名大のアフリカ考古学と南山大の旧石器コレクション」が開かれていることが取り上げられる | 6. 6 (金) | 朝日 (夕刊) |

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年5月16日～6月15日]

| 記事 | 月日 | 新聞等名 |
|---|----------|----------------|
| 71 七原優介さん教育学部4年生が大学野球日本代表候補に選ばれた | 6. 6 (金) | 中日スポーツ |
| 72 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が「政治献金のあつせんもあらためて検討し、年内にも方向を打ち出したい」と語る | 6. 7 (土) | 中日 (朝刊) |
| 73 母国にオーレ! W杯ブラジル大会: オンジュラス バレリオ・メンドーサさん本学大学院1年生 | 6. 7 (土) | 中日 (朝刊) |
| 74 この人: 日本女医会の会長に就任 山本紘子氏本学元勤務 | 6. 7 (土) | 中日 (朝刊) |
| 75 トップの金言: 人は感激に生き、保守に死す 中部経済同友会代表幹事種村 均氏本学卒業生 | 6. 8 (日) | 毎日 (朝刊) |
| 76 母国にオーレ! W杯ブラジル大会: ギリシャ パパドプル・アルクミニさん本学留学生 | 6. 8 (日) | 中日 (朝刊) |
| 77 スキャナー: 医療事故調 創設へ課題 長尾能雅医学部附属病院教授が大学病院などの支援法人・組織が院内調査を支援することについて「身内の調査で甘い報告が出ないよう、第三者機関に院内調査を監視する役割も必要だ」と語る | 6.10 (火) | 読売 |
| 78 現代日本誤百科 (996): 「妹よ」町田 健文学研究科教授 | 6.10 (火) | 中日 (朝刊) |
| 79 サイエンスカフェ イン名古屋開催: 20日「ヒッグス粒子の発見とさらなる新粒子を求めて」戸本 誠理学研究科准教授が講演 | 6.10 (火) | 中日 (朝刊) |
| 80 生物機能開発利用研究センター公開実験講座「バイオサイエンス・バイオテクノロジーを体験する」開催: 8月2、3日 | 6.10 (火) | 中日 (朝刊) |
| 81 リレーおびにおん 漱石と私①: 池内 了本学名誉教授 | 6.10 (火) | 朝日 (朝刊) |
| 82 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が法人実効税率の引き下げの代替財源として外形標準課税の拡充が議論されていることに対し反対の意向を示した | 6.10 (火) | 日刊工業 |
| 83 紙つづて: フライト・トラブル 杉山 直理学研究科教授 | 6.10 (火) | 中日 (夕刊) |
| 84 瀧口総長がイネの品種改良で協力するなどミャンマーでの支援分野を広げる方針を明らかにした | 6.11 (水) | 中日 (朝刊) |
| 85 現代日本誤百科 (997): 「高速道路を歩くのは禁じ手」町田 健文学研究科教授 | 6.11 (水) | 中日 (朝刊) |
| 86 現代日本誤百科 (998): 「消費税が増税」される 町田 健文学研究科教授 | 6.12 (木) | 中日 (朝刊) |
| 87 レーザー: 経済と学術深耕 経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生 | 6.12 (木) | 日刊工業 |
| 88 馬場嘉信工学研究科教授などの研究グループはナノクリスマスツリーで DNA を数秒で解析する技術を開発 | 6.12 (木) | 中日 (朝刊) 他2社 |
| | 6.13 (金) | 読売 |
| 89 本学の学生3名が見付消防団に入団し千種区総合水防訓練に参加 | 6.14 (土) | 千種ホームニュース |
| 90 科学技術遺産▷7: 1891年濃尾地震の根尾谷断層 発生の仕組み解明 糸口に 公益財団法人東濃地震科学研究所副 首席主任研究員木股文昭氏元本学教授 | 6.15 (日) | 日経 (朝刊) |

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

6月9日(月)～8月27日(水)

場 所：博物館野外観察園
セミナーハウス2階

時 間：10:00～16:00

休 館 日：土・日・祝日、8月14日～18日

入 場 料：無料

野外観察園セミナーハウス サテライト展示
「ボタニカルアートと写真による観察園の植物」

テ ー マ：「IV-夏の植物」



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

6月11日(水)～9月30日(火)

場 所：附属図書館医学部分館
2階入口ホール

時 間：9:00～20:00 (平日)

(8/8～9/30の平日は9:00～17:00)、
13:00～17:00 (土曜日)

休 館 日：日・祝日、

8月9日～9月27日の土曜日、

8月14日、15日、25～29日

入 場 料：無料

附属図書館医学部分館第7回ミニ展示会
「千年の医書－平安時代から江戸時代までの
古医書の世界－」

内 容：「医心方」、「病草紙」、「傷寒論」、「捷徑医筈」、「蔵志図」、
「解体新書」、「解体約図」など、古医書の歴史を語る上で
極めて重要な史料 (一部複製版) を展示



[問い合わせ先]

附属図書館医学部分館 052-744-2505

6月28日(土)～1月31日(土)

場 所：豊田講堂、減災館1階減災ホール、
環境総合館1階レクチャーホール、
他

時 間：9:15～17:00

定 員：500名

参 加 費：防災基礎研修1日+各コース
2日間で3,000円、他

平成26年度防災人材育成研修「防災・減災カレッジ」

講 演 者：福和伸夫 (減災連携研究センター教授)、他

内 容：防災基礎研修



[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

7月17日(木)

場 所：文系総合館7階オープンホール

時 間：18:30～20:00

定 員：30名

対 象：本学および近隣の大学関係者

参 加 費：無料

高等教育研究センター 第125回招へいセミナー

講演題目：「アメリカの大学の学習支援－アメリカ式教務システムと教務
職員の役割－」

講 演 者：島田敬久氏 (テンプル大学ジャパンキャンパス教務部長)

内 容：アメリカにおける教務システムの本来の意味と具体的な運用例
と同時に、これらを実際の学習支援に活用する教務専門職として
のアカデミック・アドバイザーの職責を紹介する



[問い合わせ先]

高等教育研究センター

教授 夏目達也 052-789-5693

7月19日(土)

場 所：減災館、ES 総合館

時 間：13:30～17:00

対 象：一般

参 加 費：無料 (意見交換会は
非会員・学生：1,000円)

名古屋大学協力会講演会

「迫りくる南海トラフ巨大地震を克服する」

講演題目：「南海トラフ巨大地震を知る：基礎から最新の科学的知見まで」

講 演 者：鷲谷 威 (減災連携研究センター教授)

講演題目：「歴史に学ぶ防災論：関東地震と東南海地震」

講 演 者：武村雅之 (同寄附研究部門教授)

講演題目：「減災館を活用し南海トラフ地震の減災対策を進める」

講 演 者：福和伸夫 (同教授)

内 容：講演、施設見学



[問い合わせ先]

名古屋大学協力会事務局 052-744-1987

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

7月21日(月)、7月25日(金)、8月2日(土)
 場 所：豊田市美術館
 (豊田市小坂本町) (7/21、8/2)
 文系総合館 7階
 カンファレンスホール (7/25)
 時 間：14:00~15:30 (7/21)
 17:00~19:00 (7/25)
 10:15~16:00 (8/2)
 対 象：一般
 参 加 費：無料 (スライドレクチャーと
 シンポジウムは当日の鑑賞券が
 必要)

**国際言語文化研究科「ドイツ語圏の芸術誌の研究」
 科研プロジェクト連続企画**

[スライドレクチャー] (7/21)
 講演題目：「ウィーン分離派とクリムト『ヴェル・サクルム』を中心に」
 講 演 者：西川智之 (国際言語文化研究科教授)

[講演会] (7/25)
 講演題目：「Die Linie ist eine Kraft-Henry van de Velde: Vom Jugendstil
 zum Bauhaus (線は力なりーアンリ・ヴァン・デ・ヴェルデ：
 ユーゲント・シュティールからバウハウスへ)」
 講 演 者：インゲボルク・ベッカー氏 (ベルリン・プレーハン美術館前館長)
 内 容：ドイツ語での講演で日本語通訳あり

[シンポジウム] (8/2)
 テ ー マ：「アート (芸術/技) の垣堀一世紀転換期ドイツ語圏の芸術誌」
 講演題目：「Jugendstil floral-funktional. Aspekte der Stilkunst um 1900
 (機能的な花の様式ユーゲント・シュティールー1900年前後の
 様式の諸相)」
 講 演 者：インゲボルク・ベッカー氏 (ベルリン・プレーハン美術館前館長)
 内 容：講演 (ドイツ語での講演で日本語通訳あり)、シンポジウム

[問い合わせ先]
 国際言語文化研究科 教授 西川智之
 nishi@lang.nagoya-u.ac.jp



7月22日(火)~11月29日(土)
 場 所：博物館 2階展示室
 時 間：10:00~16:00
 休 館 日：日・月曜日
 入 場 料：無料

**第19回博物館特別展
 「絹谷幸太・創知彫刻」**

[問い合わせ先]
 博物館事務室 052-789-5767

7月22日(火)
 場 所：情報基盤センター 4階演習室
 時 間：13:00~14:30
 定 員：40名
 対 象：一般
 参 加 費：無料

平成26年度第4回情報連携統括本部公開講演会・研究会

内 容：情報技術の最新動向について

[問い合わせ先]
 情報推進部情報推進課 052-789-4368

7月24日(木)、25日(金)、28日(月)
 場 所：減災館 1階減災ホール
 時 間：10:00~16:00
 対 象：参加校の高校生
 参 加 費：無料

**平成26年度高大連携高校生防災教育推進事業
 高校生防災セミナー**

講 演 者：福和伸夫 (減災連携研究センター教授)、他
 内 容：愛知県内の高校生を対象とした防災人材育成セミナー

[問い合わせ先]
 減災連携研究センター 052-789-3468

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

7月26日(土)、27日(日)

場 所: 理学部 C 館 2 階物理会議室 (C207号室)

時 間: 10:00~16:00

定 員: 各20名

対 象: 中学生 (7/26)、
高校生以上、一般 (7/27)

参 加 費: 中学生、高校生は無料

日本学術振興会連携事業 ひらめき☆ときめきサイエンス
~ようこそ大学の研究室へ~ KAKENHI
先進科学塾@名大 番外講座

テ ー マ: 「見えない粒子線を霧箱で見、速度を測る
—宇宙と物質の成り立ちをさぐる科学実験—」

講 師: 中村光廣 (エコトピア科学研究所教授)

内 容: 霧箱を使い素粒子の形や濃さなどを観測、
最先端の測定装置がならぶ研究現場の見学

[問い合わせ先]

エコトピア科学研究所

教授 中村光廣 052-789-3532

7月26日(土)、8月23日(土)

場 所: 博物館 2 階実験室、展示室

時 間: 10:00~15:30

参 加 費: 50円 (保険料)

定 員: 各21名

対 象: 小学 5 年生以上、一般

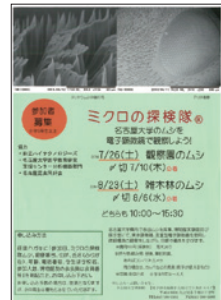
ミクロの探検隊®

テ ー マ: 「観察園のムシ」(7/26)、「雑木林のムシ」(8/23)

内 容: 東山キャンパス構内で各自ムシを採集、実体顕微鏡や走査型電子
顕微鏡を使用し微細構造の観察をしながら分類や動きを学ぶ

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



7月28日(月)

場 所: 文系総合館 6 階

ファカルティラウンジ (624室)

時 間: 10:30~12:00

参 加 費: 無料

国際言語文化研究科

第21回応用言語学講座公開講演会

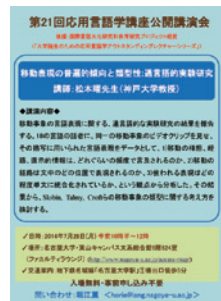
講演題目: 「移動表現の普遍的傾向と類型性: 通言語の実験研究」

講 演 者: 松本 曜氏 (神戸大学教授)

[問い合わせ先]

国際言語文化研究科 教授 堀江 薫

horie@lang.nagoya-u.ac.jp



7月29日(火)~8月9日(土)

場 所: ES 総合館 2 階

2008ノーベル賞展示室

時 間: 10:00~16:00

休 館 日: 日・月曜日

入 場 料: 無料

2008ノーベル賞展示室

ニュートン著「プリンキピア」第2版 (1713出版)

オープンキャンパス特別展示

[プリンキピア特別講演会] (8/8)

時 間: 15:00~16:00

講演題目: 「Kai タンパク質が刻む生命の時間」

講 演 者: 近藤孝男 (理学研究科特任教授)

[問い合わせ先]

理学部・理学研究科事務部 052-747-6577



7月31日(木)

場 所: 豊田講堂、シンポジウム

時 間: 13:00~17:00

参 加 費: 無料

対 象: 中学生以上、一般

名古屋 COI 拠点オープンデイ2014

第1回名古屋 COI 拠点公開シンポジウム、

第2回社会イノベーションデザイン学センター

シンポジウム

内 容: 講演、パネルディスカッション、ポスター発表、
体験・体感型展示

[問い合わせ先]

未来社会創造機構研究支援室

052-788-6056



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月1日(金)

場 所：齋藤永宏研究室
(グリーンビークル材料研究施設
3階305室)、他

時 間：10:00~16:15

定 員：20名

対 象：小学5年生、6年生
(可能であれば保護者同伴)

参加費：無料

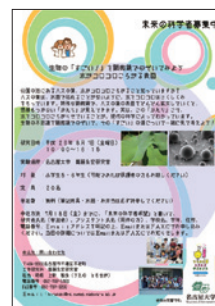
日本学術振興会連携事業

ひらめき☆ときめきサイエンス

~ようこそ大学の研究室へ~ KAKENHI

テ ー マ：「生物の『すごい!』を顕微鏡でのぞいてみよう
—水がコロコロころがる表面—」

内 容：特殊な顕微鏡でハスの葉の表面を観察し、生物の「すごい」の源について一緒に考える



[問い合わせ先]

工学研究科

助教 上野智永 052-789-5163

8月5日(火)

場 所：工学研究科1号館、
総合研究実験棟、
共同教育研究施設2号館

時 間：8:45~16:00

定 員：20名

対 象：東海地区の高校生

参加費：無料(保険料込み)

平成26年度化学・生物実験講習会

内 容：講義と最新の設備による体験学習を通して大学で
化学・生物工学を学ぶ面白さを体験する



[問い合わせ先]

工学研究科 准教授 篠田 渉

w.shinoda@apchem.nagoya-u.ac.jp

8月6日(水)~8日(金)

場 所：豊田講堂、他

時 間：9:30~17:00

参加費：無料

2014年度オープンキャンパス

内 容：大学紹介、施設見学、学生生活あれこれ、女性研究者からの情報発信、
在学生との対話など様々なプログラムを用意

8/6 教育学部、経済学部、工学部

8/7 法学部、医学部医学科、農学部

8/8 文学部、情報文化学部、医学部保健学科(大幸キャンパス)、理学部

[問い合わせ先]

企画・学務部入試課 052-789-5765

8月6日(水)

場 所：豊田講堂中2階ギャラリー、
3階第1会議室

時 間：13:00~15:20

対 象：中学生・高校生および保護者、
学生、教員、他

参加費：無料

**若手女性研究者サイエンスフォーラム、
女子中高生理系進学推進セミナー**

講演題目：「未来のための環境共生社会を目指して
—森林資源を見つめて、活かす Timber Engineering —」

講演者：山崎真理子(生命農学研究科准教授)

講演題目：「中高時代の勉強がどのように『ものづくり』に役立つか?」

講演者：田嶋聡美(工学研究科附属プラズマナノ工学研究センター特任准教授)

内 容：講演、ポスターガイダンス(中学生対象)、ポスターセッション、授賞式、
他(ポスター展示のみ8/8まで)

[問い合わせ先]

総務部職員課

kyodo-sankaku@adm.nagoya-u.ac.jp

8月7日(木)

場 所：工学部

時 間：9:00~18:45

定 員：36名

対 象：愛知県および近隣県の高校生

参加費：無料(保険料・昼食費込み)

テクノフロンティアセミナー TEFS2014

テ ー マ：「触れてみよう，電子と情報の最先端に」

内 容：電子と情報の最先端を体験できる実験

[問い合わせ先]

工学研究科

助教 塩谷亮太 052-789-4439

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月8日(金)

場 所：東山キャンパス
時 間：9:00~17:00
定 員：50名
対 象：東海地区の高校生
参 加 費：無料(保険料込み)

平成26年度テクノサイエンスセミナー2014

テ ー マ：「物理の世界にあそぶ」
内 容：大学での教育・研究に触れ大学で理工系を学ぶ面白さを体験する



[問い合わせ先]

工学研究科
教授 高嶋圭史 052-789-3232

8月9日(土)、9月17日(水)、12月20日(土)

博物館コンサート NUMCo

場 所：博物館2階展示室
時 間：14:00~15:00
参 加 費：無料

「名古屋大学附属中・高等学校プラスバンド部 Museum Music」(8/9)

演奏曲目：「『斎太郎節』の主題による幻想」合田佳代子、
「Sea of wisdom -知恵を持つ海-」清水大輔、
「NHK大河ドラマ 軍師官兵衛」菅野祐悟、他
出 演：教育学部附属中・高等学校プラスバンド部



「夜を想う-暁までの星たちの旅」(9/17)

演奏曲目：「月の光」クロード・ドビュッシー、
「アーリーモーニング変奏曲」
ジャン=ミシェル・ダマーズ、他
出 演：邊見亜矢氏(フルート)、
荒木まどか氏(ハープ)



「folklore クリスマスコンサート

インカからの贈り物」(12/20)
演奏曲目：「コンドルは飛んでいく」、「花祭り」、他
出 演：ティエラブランカ
内 容：ケーナ、チャランゴなどの楽器解説・
民族楽器体験コーナーも用意



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

8月10日(日)

場 所：理学研究科附属臨海実験所
(三重県鳥羽市)
時 間：11:00~16:20
対 象：小学5年生から高校生
参 加 費：無料

日本学術振興会連携事業

ひらめき☆ときめきサイエンス
~ようこそ大学の研究室へ~ KAKENHI

テ ー マ：「磯の生物を採集し受精発生のしくみを探る」
内 容：磯生物の観察、ウニの配偶子観察、受精実験、発生観察、
ホヤの講義、他



[問い合わせ先]

理学研究科附属臨海実験所
教授 澤田 均
hsawada@bio.nagoya-u.ac.jp

8月19日(火)~10月16日(木)

(期間内の火・木曜日)
場 所：経済学部1階第2講義室
時 間：18:00~19:30
定 員：200名
対 象：一般
参 加 費：9,460円(全15回)

平成26年度名古屋大学公開講座

テ ー マ：「おもしろいことは『境界』で起こる」



[問い合わせ先]

研究協力部社会連携課 052-789-5969

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月21日(木)、22日(金)

場 所：IB 電子情報館南棟 4階

時 間：10:00～17:00

定 員：10名

対 象：中学生、高校生

(両日参加できる方)

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

情報連携統括本部 教授 森 健策

3dp@mori.m.is.nagoya-u.ac.jp

**日本学術振興会連携事業 ひらめき☆ときめきサイエンス
～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI**

テ ー マ：「3D プリンターを使って臓器モデルを作ろう！」

内 容：医用画像処理講義、医用画像処理実習 (8/21)、
3D プリンター出力、スーパーコンピューター見学等、まとめ (8/22)

8月23日(土)、24日(日)

場 所：矢作川の河原

(愛知県岡崎市) (8/23)、

博物館 (8/24)

時 間：9:30～15:30 (8/23)、

13:30～16:30 (8/24)

定 員：30名

対 象：小学3年生以上、一般

(小学生は保護者同伴)

参 加 費：1,000円

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

名古屋市科学館共催事業

平成26年度第2回地球教室

「河原で宝石と歴史を見つけよう！」

内 容：河原に出かけ、土器・陶器やガーネットなどの鉱物を見つけ
ながら、自然と歴史について学ぶ



名大トピックス No.254 平成26年7月15日発行

編集・発行／名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

表紙

広報プラザ会場

(平成26年6月11日)



名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

147 名大史のなかの仮装行列

本誌巻頭でも報じられていますように、今年も名大祭が盛大に行われました。今回で55回を数える名大祭ですが、第1回から続いている数少ない催しの1つが仮装行列です。名大祭の半月ほど前に、クラスごとに手作りのハリボテなども伴いながら名古屋市栄の繁華街を行進するこの仮装行列は、名大だけではない、名古屋の風物詩として市民に親しまれています。

もっとも、名大史における仮装行列は、55年よりはるかに前からの歴史があります。例えば、古くは医学部の前身である愛知県立医学専門学校で、運動会の余興として仮装行列を行っていました（写真1）。また、旧教養部の前身にあたる第八高等学校（1908～1950）では、行列ではありませんが、創立記念祭（学園祭）においてハリボテの展示がありました（写真2）。

戦後の名大では、1960（昭和35）年に第1回名大祭が開催される前においても、「開学記念祭」や「大学祭」として

学園祭を開催していましたが、すでにその頃から学外を行進する仮装行列が行われていました。

第1回名大祭における仮装行列は、現在のようなプレ企画ではなく、名大祭最終日の体育祭の後に行われました。時あたかも、日米安全保障条約改定問題が日本全体を揺るがしていた只中であり、仮装にもそれが反映されています（写真3）。行進も現在とは異なり、鶴舞グラウンドから東山キャンパスへ向かうルートで、そのまま東山キャンパスで後夜祭（ファイヤーストーム）を行うというスケジュールになっていました。

その後、悪天候によって行列が中止になった年、近年では2011（平成23）年は東日本大震災に配慮して学外での行進を自粛し、学内のみの行事となったことなどがありました。しかし、今年（2023）は5月18日（日）に、地域の皆様や警察のご理解とご協力を得つつ、名大生が55年前と変わらず元気に行進を行いました。



| | | |
|---|---|---|
| 3 | 4 | 5 |
| 1 | 2 | |

- 1 愛知医専学生による仮装行列の記念写真（1913年、附属図書館医学部分館医学部史料室所蔵）。
- 2 「金求金苦（キングゴング）」（1934年）。当時の経済不況とアメリカの大ヒット映画「キングゴング」（1933年制作）を合わせたもの。
- 3 当時の岸信介首相などを風刺したハリボテをかついで行進（1960年）。
- 4 第30回名大祭（1989年）の仮装行列記念写真（同年の生協アルバムより）。この年は、地球環境の問題をうったえる仮装が目立った。
- 5 今年の仮装行列（名大生協提供）。近年は、ハリボテを作るクラスはごく少数派になっている。